

第3 2期青森県社会教育委員の会議第2回全体会会議概要

日時	平成27年2月4日(水) 10:00~12:00
場所	県庁西棟8階中会議室
出席者	<p>《委員》敬称略 12名 佐藤 貴子 古川 郁生 横田 渉子 毛利 精悟 柿崎 博 前田 智子 外井 亜希 大沢 潤蔵 七條 いつ子 吉田 圭子 茂木 典子 増田 貴人</p> <p>《青森県教育長》 中村 充</p> <p>《事務局》 5名 中野 聖子 (生涯学習課長) 渡部 靖之 (生涯学習課学校地域連携推進監) 森田 勝博 (企画振興GM・主任指導主事) 他2名</p> <p>《その他》 3名 葛西 浩一 (学校教育課学校教育企画監) 小森 直樹 (県総合社会教育センター 社会教育主事) 松倉 良子 (県総合社会教育センター 社会教育主事)</p>
内容	<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 案 件 (1) 調査研究の具体的な内容、方法について (2) 実地調査について (3) 社会教育関係団体補助について (4) その他</p> <p>4 閉 会</p>
配付資料	<p>《事前配布資料》</p> <p>資料1 調査研究へのアプローチについて 資料2 調査研究のプロセスについて 資料3 実地調査について 資料4 社会教育関係団体に対する補助金の交付について 資料5 第3 2期青森県社会教育委員の会議調査研究スケジュール</p> <p>《当日配布資料》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田委員提供資料 ・外井委員提供資料

案件(1) 調査研究の具体的な内容、方法について

○ 事務局より、調査研究へのアプローチやプロセスについて説明した。

《協議》

議長 事務局からの説明を受けて、質問や意見等をお願いしたい。

○ 子ども家庭支援センターでは、情報誌「あのね」発行などの情報提供、地域子育て支援拠点関係者研修会や手作りおもちゃ講習会などの活動支援、電話や面談などの総合相談、親子すくすくスキンシップ事業や季節の行事などの学習・体験、子育て広場やしあわせ未来予想図などの普及啓発、子育てサークル実態調査などの調査研究を行っている。

- 学んでいく中で自分の軸を見つけていく、あるいは子育てを楽しめるような自分になるために学びをしていく。何かと一緒に、相互交流のような形でワークをしたりとか意見交換し合ったりとか、そういう中で学びのきっかけが生まれてくるのではないか。
- 若い母親でも、お互い接する時間が多ければ多いほど、自発的に学んでいく。これまでは、たくさん思っていることがあっても、出す場がなかったのだと思う。
- おやじの会やPTAなどに人が集まってこないのだが、潜在的にはやってみたいという人も多いことに気づき、楽しさを演出するようにしている。例えば、PTAのチラシを手書きで楽しいチラシにしたところ、確実に人が集まった。
- カジダン・イクメンの存在は大きい。楽しさがなければやっても続かない。学びは大切だが、あまり前面に押し出してしまうと面倒に思われたりする。本来の子育ては楽しくて素晴らしいということを伝えていく必要がある。
- PTA活動に全く参加しない人もいるが、1回でも来てくれれば良さや楽しさが分かってもらえる。子どもたちと一緒に活動するのは楽しいし、子どもたちもそんな親を誇らしく思っているし、自分の親が参加すれば子どもたちもうれしいと思う。親たちを誘い合って出てきてほしい。
- おやじの会には卒業がなく、先輩たちに来てもらって教えてもらいながら活動を続けている。一方で、PTAやおやじの会の活動が、どこで行われているのか、どんな活動をしているのか、情報がない。
- 家庭で何かあったとき、どこに相談すればよいのか。どこと一緒に動き、どうつながればよいのかが分からないでいる。
- 例えば、法務局に常駐する人権擁護委員は、どこに相談すればいいかという道筋をつけてくれる。
- どこにアクションを起こせばいいのかが分からない人のためにも、コンシェルジュのような窓口があるとよい。
- 子育てや介護などで女性が退職せざるを得ないといった話を聞くが、企業のワーク・ライフ・バランスであるとか、女性が仕事を続けていくことに対して企業ではどのような取組をしているのか。
- 子育てに関わることだったら最優先で休んでよいといった風潮を作り出していくことも必要ではないか。
- イクボスが必要。社会に向けて発信していくような学び、父親が家事や育児に携われるような働き方を広めていくような学びが必要ではないか。

「男性の積極的な関わり」や「企業のワーク・ライフ・バランス」等を盛り込みながら実地調査を行い、調査研究を進めていくとされた。

案件（２） 実地調査について

○ 事務局より、実地調査について説明した。

〈協議〉

議長 事務局からの説明を受けて、質問や意見等をお願いしたい。

- 直接の家庭教育支援ではないが、子育てを楽しめるような自分になるという点から、ドリームプランプレゼンテーションを調査先として提案したい。
- 単に団体の活動紹介で終わる可能性もある。相談されている側は、どこにつながってプログラム（活動）を展開しようとしているのかを調べていくとよいのではないか。
- 育児の満足感が高い、育児のストレスが低い親は、総じて地域に対する愛着が高いという研究結果がある。誇らしい親、地域への愛着を促しているという観点で実地調査につなげてはどうか。
- 調査対象とする団体は、狭く家庭教育支援に限定せず、社会教育委員という広い立場から、家庭教育支援というテーマを外さない程度で団体を挙げていただきたい。
- 社会教育担当の町職員が勉強熱心で、それこそコンシェルジュのような存在だった。
- 町職員に町外出身者（地域おこし協力隊）がおり、非常に柔軟性を持った考え方をしている。地域に長く住んでいる方は、地域を愛するが故によそ者を受け入れたくないという気持ちがあるのではないか。信頼関係を作った上で、人をお願いするようなつながりの生み出し方をしてほしい。
- どこに行っても住んでいる地域を自慢できるような自分になっていきたいし、地域に貢献していきたいと思う。仲間づくりが楽しければ人は寄ってくる。
- 実地調査では、次の世代を育てるという視点を盛り込んではどうか。親が育ち、親が学ぶのに大事なことは、下の世代のモデルになっていく思いを伝えていくことではないか。尊敬できるところを育てていく取組からつながりも出てくると思う。
- 7～8年ほど前に、県ではほほえみプロデュース事業を行っていたが、改めてスポットを当てて調べてみてはどうか。

全体会で出された意見を取り込みながら、専門部会で詳細を協議していくとされた。

案件（３）社会教育関係団体補助について

○ 事務局より、青森県連合青年団及び青森県地域婦人団体連合会への補助について説明した。

質問や意見は出されず、2団体への補助金交付について了承された。

案件（４）その他

○ 事務局より、今後のスケジュールについて連絡。

—以上—